

# 気仙沼と、東日本大震災の記憶

—リアス・アーク美術館

東日本大震災の記録と津波の災害史—



2011年11月24日、気仙沼市波路上瀬向、高校校舎3階図書室の状況。本は水に浸かると3倍から4倍に膨張する。本棚の中に納まった状態でこうなると、もう抜き出すことは不可能だ。スチール棚などは膨張に耐えきれず変形してしまう。絶版となった本は新たに入手することが難しい。この震災で貴重な書籍を失ってしまった者は少なくない。

2016.2.13 [土] — 3.21 [月・休]

観覧無料

開館時間：午前10時—午後6時（入館は午後5時30分まで）  
休館日：月曜日（ただし3月21日〔月・休〕は開館）  
主催：目黒区、公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館  
特別協力：リアス・アーク美術館

写真提供：リアス・アーク美術館

目黒区美術館

Meguro Museum of Art, Tokyo

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 Tel. 03-3714-1201 <http://www.mmat.jp>

気仙沼市と目黒区は、1996年の「目黒のさんま祭」に気仙沼市よりサンマをご提供いただいたのをきっかけに交流が始まり、災害時相互援助協定の締結や中学生の自然体験ツアーの実施などを行ってきました。そして、2010年9月、両自治体は友好都市協定を結び、さらに絆を深めました。東日本大震災が起きたのはその半年後のことでした。

リアス・アーク美術館は、発災から2年が経った2013年4月、常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」を公開しました。これは、同館が中心となり、震災発生直後から行なった気仙沼市と南三陸町の被災状況の調査、記録活動を基にしたもので、撮影した被災現場写真約30,000点、収集した被災物約250点から厳選した資料群に、新聞や過去に起きた大津波に関する資料を加えた約500点で構成されています。

地域のミュージアムとして、現代美術の紹介とともに、歴史、民俗、生活文化を伝える資料の収集・展示にも力を入れてきたリアス・アーク美術館は、この震災以前から「津波」を地域の文化を築いてきた大切な要素の一つと捉え、過去の大津波を展覧会で取りあげてきました。こうした経験が結実し、東日本大震災の記録活動を、記録資料を残すことで終わらせず、正しく伝えようとするのが、この常設展示です。「被災現場写真」には場所と状況の説明を加え、「被災物」は生活の記憶の再生装置と捉え、単なる資料展示をこえた、説得力のあるインスタレーションとして構成されています。さらに、震災発生後の2年間に得た様々な情報や課題をテキストで表現した108の「キーワードパネル」が加わり、鑑賞者の深く考える契機ともなる内容となっています。

本展は、「東日本大震災をいかに表現するか、地域の未来の為にどう活かしていくか」をテーマに編集された、この「東日本大震災の記録と津波の災害史」を、東京地区で初めて大規模に紹介するもので、被災現場と被災物の写真パネル約260点、被災物(現物)11点に関係歴史資料を加えて展覧いたします。そして、リアス・アーク美術館の特色あるもう一つの常設展示、地域の歴史・民俗資料をまとめた『方舟日記—海と山を生きるリアスな暮らし—』をもとに、生活文化資料を特別展示し、気仙沼・南三陸地域が育んできた豊かな地域文化の一端をご紹介します。

被災地域の復興は、5年目を迎える今もまさに進行形で行われています。本展が、震災をめぐるさまざまな物・事を想い、記憶を更新／形成させ、地域と世代を超えてともに考えていく一助となれば幸いです。



2011年3月12日、気仙沼市松崎片浜の状況。前日の雪が嘘のように、朝から晴天となった。対岸とその付近の海上からは、もうもうと煙が上がっており、湾の奥の方はかすんでしまっている。まだ何がどうなっているのか全く把握できていないが、明らかなのは沿岸が壊滅してしまったということ。「だめです、なんにもありません、壊滅です」。早朝、現場を確認した調査員が険しい表情でそう語った。



2011年3月25日、気仙沼市本吉町三島(大谷地区)の状況。JR気仙沼線、大谷海岸駅構内から仙台方面に伸びる線路。左手は大谷海岸になるが、引き波によって枕木ごと持ち上げられたレールがめくれあがり、螺旋を描いてしまっている。ジェットコースターの軌道ならば疑問は感じない。しかし、これはあくまで鉄道のレールである。本線の再開については全く見通しが立っていない。



2011年4月5日、気仙沼市仲町の状況。JR南気仙沼駅のホーム。気仙沼市民にとってJR気仙沼線は仙台方面への移動手段として欠くことのできない重要な公共交通手段だった。特に高齢者や学生にとってはまさに日常の足だった。土日には通称「お買いもの列車」と呼ばれる8時台の仙台直通列車に乗り、17時台仙台発の便で帰ってくる。おしゃれをした若者が、ロゴの入った衣料品店の袋を下げて列車を降りてくる。

リアス・アーク美術館 (宮城県気仙沼市赤岩牧沢138-5 tel.0226-24-1611)

1994年10月25日開館。東北・北海道を一つのエリアと捉え、美術をはじめとする芸術・文化を継続的に調査、研究し、個性豊かな圏域文化を紹介する常設・企画事業を展開している。圏域に内在する文化資源を見つめなおす展覧会や教育普及の一連の活動が「地域のアーカイブとしての新境地を開拓した」として、「平成26年度地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞した。

#### 《関連催事》 特別講演会 「震災をどのように定義するべきか」

2016年2月13日[土] 午後2時-3時30分

講師：山内宏泰(リアス・アーク美術館 学芸係長)

会場：目黒区美術館 1階 ワークショップ室 定員：70名 聴講無料

※詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

ほかに、本展会期中に当館学芸員が展覧会や所蔵作品についておしゃべりする「大人のための美術カフェ」の開催を予定しています。

#### 《同時開催》 ワークショップ 「美術の基本」

身体全部を使って美術を体験するコースや絵の構造や修復、額装について知る多彩なコースを開催します。

※詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

# 気仙沼と、 東日本大震災の記憶

—リアス・アーク美術館  
東日本大震災の記録と津波の災害史—

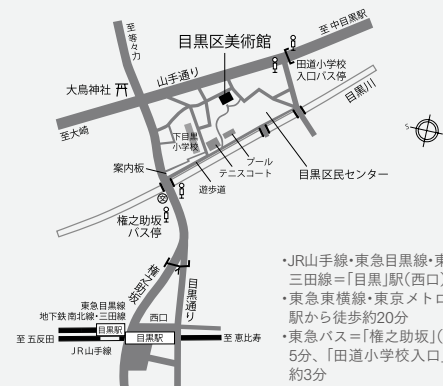
写真提供：リアス・アーク美術館



2011年3月13日、気仙沼市魚市場前の状況。歩行が困難な被災物の堆積があり、かつ此処ここから煙が上がっている。時折吹く風が大破した家屋のトタン板を揺らす。バラバラ…カラランというような、それまで聞いたことの無い音が四方八方から聞こえていた。それ以外の音と言えば、上空を飛び交うヘリコプターの風切音のみ。頭に浮かぶ言葉もない。



2011年3月29日、気仙沼市浜町(鹿折地区)の状況。津波被災現場を歩くと、目にする光景の非現実性、あまりの異常さに思考が停止してしまう。常識に裏付けられた論理的な解釈ができず、一瞬、妙に幼稚な思考が顔をのぞかせる。「巨人のいたずら…」などと感じたりするのだ。実際、そんな程度の発想しかできないほどメチャクチャな光景が果てしなく続いていた。



詳しいマップはこちら

- ・JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線=「目黒」駅(西口)から徒歩約10分
- ・東急東横線・東京メトロ日比谷線=「中目黒」駅から徒歩約20分
- ・東急バス=「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩約5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩約3分

目黒区美術館  
Meguro Museum of Art, Tokyo

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36

Tel. 03-3714-1201

<http://www.mmat.jp>

メルマガ会員募集中 <https://service.sugumail.com/mmat/>